

平成25年5月7日

長崎市議会議員

五輪 清隆

## 欧州訪問報告書（所感）

平成25年4月15日（月）～25日（木）の日程で、市長・議長・市議団の一員として、ドイツ（ヴュルツブルク市）、モナコ公国、スイス（ジュネーブ国連欧州本部）の訪問を行ってきましたのでご報告致します。

ドイツ：ヴュルツブルク市（4月16日～17日）

{ヴュルツブルク市との市民友好都市提携}

- ヴュルツブルク市は、19世紀に出島の商館医として赴任し、日本における西洋医学の基礎を築くと共に日本の近代化に大きく寄与したフィリップ・フランツ・フォン・シーボルトの生誕地で、ヴュルツブルク市にはシーボルトに関係する団体や日本から持ち帰った資料や遺品が保管されています。

そのような状況を踏まえ、長崎市は市長より平成24年度施政方針において市民友好都市提携について表明され、平成24年12月19日のヴュルツブルク市議会で提携が承認され、平成25年2月6日にヴュルツブルク市より提携承認の文書があり今回の市民友好都市提携となりました。

調印式は、ヴュルツブルク市議会議場で行われ、中根 猛氏（駐独日本大使）、ヴュルツブルクの市会議員や市民の方々も同席されて歓迎ムードの中で、ヴュルツブルク市長（ゲオルグ・ローゼンタール）と田上長崎市長により市民友好都市提携が結ばれました。又、長崎市議会議長をはじめ、市議会議員（6名）も調印に署名してきました。

私は初めて、このような調印式での署名であり、今後のヴュルツブルク市との市民友好都市提携の責任を痛感しました。

- シーボルト博物館は、1995年にシーボルトを顕彰し日独の文化交流を進める為に生誕200周年の前年に開館されています。開設に伴い長崎市から展示品として18点が寄贈されています。

博物館は、公益法人シーボルト協会がヴュルツブルク市より無償で借り受けて管理・運営をされていますが、私は運営費用・来場者数も心配でありましたが、展示品の充実をしなければと思いました。その為には長崎市からの展示品の寄贈や日本からの観光客の見学ルートに入れる事によって来場者の増加が見込めるので検討する事も必要と考えました。

## モナコ公国（4月18日～20日）

{世界新三大夜景都市モナコより名誉証明書を授与される}

- モナコ公国は、世界で2番目に小さいミニ国家で人口は約36000人で国連加盟国の中で世界最小であります。カジノやF1モナコグランプリで有名な国家であります。昨年10月に世界新三大夜景に（長崎・モナコ・香港）が認定されて、モナコ公国より長崎市は名誉証明書を授与されることになりました。滞在時には駐日モナコ大史・政府観光会議局局長（観光大臣も兼務）・モナコ市市長代理などとの懇談を行いました。モナコ公国への年間観光客は700万人で、日本人はその内2%の14万人となっています。700万人は観光が80%・会議が20%で年間700のイベントを行っています。12月～3月がオフシーズンでホテルの稼働率が61%、オフシーズンを除けば80%で、オフシーズンを稼働率目標75%に向けて、企業と連携を図り会議を多く誘致すること検討されています。モナコには日帰り観光も多く近年はロシアからの観光客が増加しています、リピーターやレジャー観光も多く、観光客が使用する金額は1000～1200ユーロ/日・日本円で10万円を超えるお金で1人当たりの単価が高くなっています。モナコと長崎の夜景を比較すると、私は遜色ないと思いましたが、市議会の特別委員会で観光振興特別委員会に所属していますので、長崎から見る夜景を国内外にどのようにPRしていくかを議論して観光客の増加対策を行いたいと思います。

## スイス：ジュネーブ（4月22日～24日）

{NPT再検討会議第2回準備委員会傍聴}

- 初めて国連欧州に訪問させて頂き、天野 万利氏（軍縮会議日本政府代表部・特命全権大使）、猪又 忠徳（国際連合諸機構合同監査団独立監査官）との懇談をする機会がありました。天野大使との懇談では松井 一實氏（広島市長）やナガサキ・ユース代表団（8名）も出席しての懇談会で、その中で長崎市より核兵器の非人道性に賛同を要望しました。しかしながら日本政府は「いかなる状況でも核兵器が二度と使われない事が人類存続の利益になる」という表現が、日本の安全保障政策と一致しないとして賛同しませんでした、唯一の被爆国である日本が「核兵器がない世界」を目指すチャンスを逃したことは大きな問題と考えます。
- 初めて欧州へ訪問しましたが各国の文化の違いを肌で感じましたが、今後、私の議員活動に活かして行きたいと思います。今回訪問地で対応して頂いた関係者の皆さんに感謝いたします。